

2.1 カリキュラム

2.1.1 カリキュラムとは

カリキュラムとは卒業に必要な条件や履修できる科目を定めたもので、入学年度によって決定され、学籍異動の場合を除いて、通常は卒業まで変更されることはありません。

<カリキュラムと入学年度>

適用カリキュラム	入学相当年度	備考
2017年度カリキュラム	2017年春以降	—
2011年度カリキュラム	2011年春～2016年秋	復学・再入学をした場合も、適用カリキュラムは変更されません。
2006年度カリキュラム	2006年春～2010年秋	適用カリキュラムが変更になる場合があります。下表参照。

2006年度カリキュラム学生のカリキュラムが変更になる場合

通常、カリキュラムは卒業まで変更されませんが、2006年度カリキュラム学生については学籍異動（復学・再入学）によって、適用されるカリキュラムが変更になる場合があります。

<2006年度カリキュラム学生の復学・再入学後の適用カリキュラム確認表>

		2018	
		春	秋
復学・再入学時の セメスター回生	15セメスター	2011年度カリキュラム	
	16セメスター	2006年度カリキュラム	

● 確認表の見方（例）

2018年度春セメスターに16セメスター回生として復学または再入学する場合	2006年度カリキュラム(変更なし)
2018年度秋セメスターに16セメスター回生として復学または再入学する場合	2011年度カリキュラム(変更あり)

適用カリキュラムが変更になる場合の特例措置

適用カリキュラムが変更になった場合、要卒単位構造を含め全ての条件が新しい適用カリキュラムに基づくこととなります。そのため、必修科目や科目分野の必要単位数が変更になる場合があります。ただし、次ページに記載された事項については、特例措置として適用カリキュラムが変更になった学生へは適用しません。詳細は、アカデミック・オフィスホームページ「カリキュラム」内「カリキュラムの変更」ページにある「適用カリキュラム変更後の特別措置 (PDF)」を確認してください。

適用カリキュラム変更	特例措置
2006年度から 2011年度へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録上限単位数の変更は適用されません。 F評価の通算GPAへの算入、成績証明書への記載は適用されません。 (国際経営学部のみ) 登録必須科目の設定は適用されません。 (日本語基準学生のみ) 入学基準言語と反対の言語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目の履修条件の特例措置として、300番台以上の講義科目履修については、「英語中級A・B修了」または「TOEFL® 500点以上相当のスコア提出」のどちらか一方の条件がそろえば履修を許可します。また、100番台・200番台の講義科目履修については、2006年度カリキュラム適用学生と同様に、要件はありません。 (日本語科目の要卒業単位が12単位に変更された学生のみ) 卒業に必要な日本語科目の単位数が12単位に変更された学生は、2011年度カリキュラムへも同卒業単位構造が引き継がれます。

2.1.2 卒業要件

カリキュラムや入学基準言語、国内学生・国際学生の別によって、卒業要件や履修できる科目が異なります。卒業要件は、自身に該当するページより詳細を確認してください。

※入学時点で日本語基準国内学生と判定された学生は、入学後にビザの切り替えが発生した場合も、「英語開講科目20単位以上修得」の卒業要件は変更されません。

2.1.3 科目の系統的な履修

各科目は基礎的な科目から順に系統的に配置されています。履修する科目のグレード番号、科目分野、科目の前提科目、科目の履修条件などを参考にしつつ、自身が重点的に学修したい分野をよく考えて、系統的に履修を進めてください。なお、演習科目など、指定された科目を除けば、対象とされる回生以上であれば履修できますが、入門・基礎的な科目から計画的に履修することが望まれます。(参照127ページ(2017年度カリキュラム)、130ページ(2011年度カリキュラム))

グレード番号

各科目には以下の通り、グレード番号が付番されています。各科目のグレード番号は、科目一覧より確認してください。なお、入学基準言語と異なる言語で開講される科目の履修については、入学言語によって履修条件が異なります。必ず該当するページより詳細を確認してください。

グレード番号	概要	グレード番号	概要
100番台	1回生向けの科目	300番台	3回生向けの科目
200番台	2回生向けの科目	400番台	4回生向けの科目

前提科目

系統的な履修を行うために、ある科目に対して「前提科目」が設定されている場合があります。科目一覧において「前提科目」が設定されている科目を履修するためには、まず、定められた「前提科目」を修得しなければなりません。

また、科目一覧には記されず、シラバス内にも「前提科目」が記されている場合があります。この場合は、前提科目を修得していなくても当該科目を履修することができますが、「前提科目」を修得済みであることを前提として授業が行われますので、事前にシラバスをよく読み、授業内容をよく確認してから登録してください。